

■環境配慮の考え方

低炭素社会の構築やスマートコミュニティの実現に向け、川崎市建築物環境配慮制度を考慮し、環境配慮型庁舎を実現するために、下記の各手法について費用対効果も含めて検討し、この中から採用する技術を選択する。

□再生可能エネルギーや自然の力を有効利用

- ・太陽光や地中熱、井水など再生可能エネルギーの利用
- ・節水器具の採用とともに、雨水を地下に貯留し、トイレ洗浄水等に利用することなどを検討し、省資源化をはかる。

□最新の環境配慮技術の採用

- ・新庁舎へのBEMS導入による最適なエネルギーマネジメントを実現するとともに、川崎駅周辺のスマートコミュニティ実証事業と連携し、川崎駅周辺地区におけるエネルギー利用の効率化に寄与する。
- ・太陽光発電を活用して製造した水素を貯蔵し、水素ディスペンサーを利用したFCVへの充填や、燃料電池による電力供給を検討する。

□効率の良い建築・設備計画による省エネルギーと温室効果ガス排出を抑制

- ・高断熱ガラスや庇、屋上緑化など建物性能の向上
- ・CGS（コージェネレーションシステム）やLED照明など高効率設備システムの採用

光

- ・太陽光発電パネル
- ・太陽熱集熱パネル
- ・昼光利用
- ・LED照明
- ・照明人感センサ制御

熱

- ・高断熱ガラス
- ・室用途と空間に応じた省エネルギー空調

土

- ・アースチューブ
- ・地中熱利用

風

- ・自然通風
- ・ナイトパージ

水

- ・雨水利用
- ・井水利用

緑

- ・屋上緑化
- ・国産木材の利用

省エネ

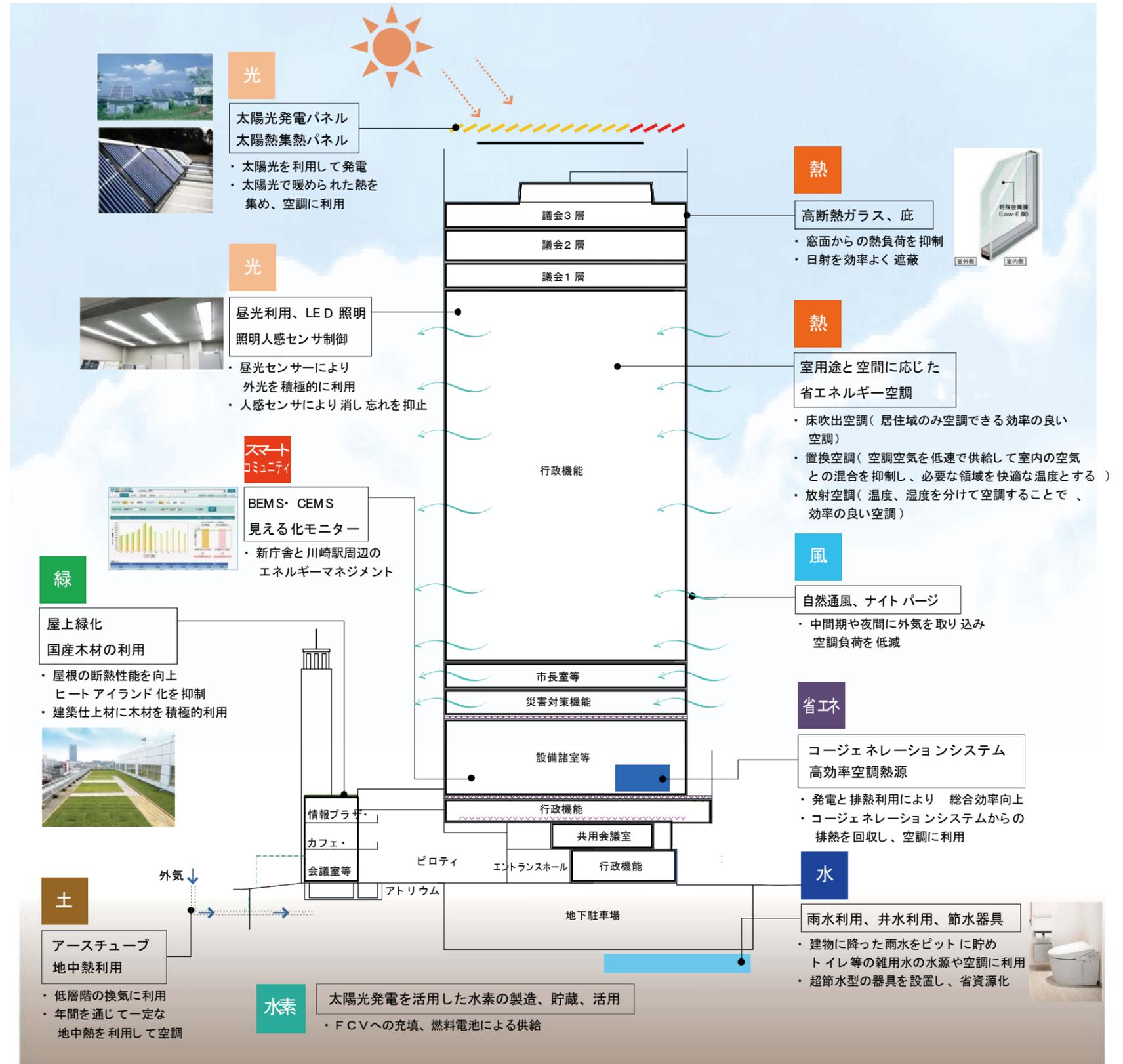
- ・コージェネレーションシステム
- ・高効率空調機

スマートコミュニティ

- ・BEMS・CEMS
- ・見える化モニター

水素

- ・太陽光発電を活用した水素の製造、貯蔵、活用



※掲載した技術について費用対効果も含めて検討し、この中から採用する技術を選択する。